

科目名称：	保育者・教職入門	
担当者名：	改田 陽子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
保育者(保育士・幼稚園教諭・保育教諭)の制度的位置づけ及び役割と意義について学ぶとともにその職務内容および専門性についての理解を深める。また、保育者とその他専門家等との協働について、保育者が学び続ける姿勢の獲得とそのための方法を理解する。		
授業の達成目標・到達目標		
本授業では、専門職としての保育者の役割、倫理、制度的位置づけ、専門職としての成長等について学ぶ。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)		30	40	30	100
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容 (内容・経験年数を記載)	
あり	《内容1》幼稚園教諭	《経験年数1》33年
	《内容2》保育士	《経験年数2》1年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
人間性	自分について理解し、課題によく向き合い、最後まで成し遂げることができる。	自分について理解し、課題に向き合い、最後まで成し遂げる努力をする。	自分について理解し、課題に向き合うことはできる。	自分について理解しようとせず、課題にも向き合わない。
社会性	他者と協力して活動を行い、社会状況・自然環境に積極的に興味関心を持っている。	他者と協力し、社会状況・自然環境に興味関心を持つようとしている。	他者と協力して活動を行っている。	他者と協力して活動を行わず、社会状況・自然環境に興味関心がない。
専門性	保育者になる為に必要な専門性を自覚し、身に着けている。	保育者になる為に必要な専門性を自覚し、身に着ける努力が見られる。	保育者になる為に必要な専門性を自覚している。	保育者になる為に必要な専門性を自覚していない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 「保育者・教職入門」のガイダンス 「保育者」とは？(グループワーク)	シラバスを精読しておく	20分
第2回 保育者になるために。制度的な位置付けと倫理(ITC使用)	教科書P31の表2-3「倫理綱領」を読んでおく。	30分
第3回 保育者の一日 ディリープログラム(DVD視聴)	幼稚園・保育所・認定こども園の一日の流れを調べておく。	30分
第4回 子どもの内面や発達を理解する保育者(子ども理解に基づく保育) DVD視聴	教科書第5章を読んでおく。	30分
第5回 遊びを援助する保育者(遊びの理解と援助の在り方) DVD視聴・グループワーク	教科書第6章を読み、子どもの遊びと学びについて把握しておく。	30分
第6回 教材などを通して遊びを深める保育者①(絵本の教材研究) グループワーク	対象年齢に応じた絵本を1冊選んで持参する。	30分
第7回 教材などを通して遊びを深める保育者②(教材研究と環境構成) ITC利用	教科書P183~189を読み、教材研究の大切さをまとめてくる。	30分
第8回 個と集団を生かす保育者(個と集団への保育者の関わり方) DVD視聴	教科書第7章を読んでおく。	30分
第9回 保育を展開し評価する保育者(保育の計画・実践・査察)	教育要領・保育指針の指定ページを読み、指導計画及び評価について把握しておく。	30分
第10回 家庭や地域と連携・支援する保育者①(保護者や家庭との連携) ITC利用	子育て支援について調べておく。	30分
第11回 家庭や地域と連携・支援する保育者①(地域社会や小学校との連携・協働) ITC利用	教育要領・保育指針の指定ページを読み、小学校との連携・接続を調べておく。	30分
第12回 多様な子どもの理解と支援する保育者(他機関との連携) DVD視聴	教科書P9章を読み、多様な子どもについて調べておく。	30分
第13回 成長する保育者と同僚性(グループワーク)	教科書第11章を読んで、保育者の同僚性とは何かについて調べておく。	30分
第14回 保育者の専門性・自軍の理想とする保育者像(グループワーク・ITC利用) DVD視聴	これまでの学びから「自分の理想とする保育者像」をまとめておく。	40分
第15回 授業のふりかえりとまとめ・小テスト	これまでの復習をしておく。	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
授業内小テスト(30%)、コメントシート課題(40%)、ノート・ファイル整理(20%)、授業への積極的関与(10%)

課題に対するフィードバック

授業内プリントや課題レポートは評価し返却する。

教科書・参考書

教科書 「保育者論」(汐見稔幸・大豆生田啓友著、ミネルヴァ書房)
参考書・参考資料等
「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」